子育て情報（園長先生の子育てひろば）

令和２年度　１１月
椙山女学園大学附属幼稚園

この実は浮く？沈む？

園長　山中　文

ある幼稚園のお話です。

８月のある日、幼稚園内の畑で収穫した野菜を園児たちが洗っていたときのこと、一人が、「へー！ナスやピーマンは軽いから浮かぶと思っていたけれど、キュウリも浮かぶんだ…水分が多いから沈むと思っていたけれど、そうなんだ…」とつぶやいたそうです。そして、ナスやピーマンなど水中に沈めては手を放し、「ほら、浮く！」と確かめたとか。

10 月になるとさつまいもの収穫になります。洗っている時に、また子どもたちの声が。今度はさつまいもで浮き沈みを確かめて、「ほら、やっぱり沈んだ！土の中にできる物は沈むんだよ」「そうだ、ジャガイモも沈んだしね」。

保育者が、「土の中にできるものだから？」と子どもの発言を確認すると、「そう、土の上にできるピーマンとかは浮いたでしょう？」と自信たっぷりに答えたとか。「じゃあ、大根はどう？」と問うと、子どもは「沈むよ、土の中だもの」と答え、みんなで透明な水槽に沈める実験もしたようです。

そのあとも、柿の実は浮くのに熟した柿の実は沈む、トマトは赤い実も緑の実も沈む、と次々に試します。柿については、カップの中に浮いている柿と沈んだ柿の絵を描き、説明書きまでつけたそうです。作物の収穫が終わったあとは、種の浮き沈みに進み、「たねたね研究所」が園児の間で開設されたのだとか。

この園のお話では、「試す」という行為は年少・中の子どもたちも行っているけれど、５歳児になるとどうやって試すかある程度の筋道を立てる、と解説されていました。園児たちが試したものの浮き沈みは、なるほど確かに「筋道」の立った面白い「実験」です。

私がもう一つ面白いなあと思ったのは、保育者の見取りと援助です。この幼稚園では、8 月の園児の会話以降、野菜を洗う時の園児に注意を払っていたそうです。そうして、10 月のさつまいもの会話をキャッチしています。また、「土の中にできるものだから？」とか「じゃあ大根は？」というように、自分の推測を確認していけるように言葉をかけています。柿の実の絵も、保育者が「みんなにわかるように、絵に描いて教えない？」と声をかけたことから生まれました。収穫後は、園児が種に興味を持つように、わざとオクラなどを畑に植えっぱなしにしていたとのことでした。そして、子どもたちの「実験」結果は保育者が絵や写真にまとめ、保育室に貼って、意欲の持続や興味につなげています。

子どもたちが主体的に追究している背景には、さりげなく見える大人のかかわりや支えがあるものです。もちろん保育者はそれを常に考え、集団教育の中で実践研究しているわけですが、ご家庭でも、子どもの声に耳を傾けると、面白い追究につながっていくようなつぶやきをいくつも発見できると思いますよ。

この事例は「思考力、判断力、表現力の基礎」を育てる援助に関する一考察　ー５歳児を中心にー」（遊佐早苗、白石昌子著、福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要 2、2020）に掲載されています。